

2022年7月13日

株式会社 井筒屋

当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社は、取締役会の実効性を高め、企業価値の向上を図ることを目的として、2022年2月期における当社取締役会の実効性について、分析・評価を実施いたしましたので、その結果の概要についてお知らせいたします。

1. 評価の方法

昨年度と同様に、アンケートを実施

【対象者】 当社取締役および監査役

【実施時期】 2022年5月

- 【質問項目】
- (1) 取締役会の構成について
 - (2) 取締役会の運営について
 - (3) 取締役会の議案について
 - (4) 取締役会を支える体制について
 - (5) 取締役会の実効性向上に向けての提言・課題について（自由記載）

2. 分析・評価結果の概要

(1) 取締役会の構成

- ・取締役会の人数、構成は適正であること、また、社外取締役にしても兼任状況・就任期間も適切であることおよび、取締役会において積極的に活発な発言を行っていることが確認された。

- ・多様性（ダイバシティ）の観点から、女性の登用が課題であったが、女性の社外取締役の登用や女性管理職の増加が評価され、昨年に引き続き一定の評価を得ている。

(2) 取締役会の運営

- ・年間スケジュール、開催頻度、議案の範囲・分量、資料の内容・分量、審議時間等については、概ね適切に運営されていることが確認された。
- ・取締役会の議長の議事進行は概ね適切であり、社外役員、監査役が自由に発言できる雰囲気の中で議論を行っていることが確認されたが、議論する問題が見当たらなかったこともあるかも知れないが発言が少し少なかったという意見があった。

(3) 取締役会の議案

- ・企業戦略の大きな方向性を示す議題の審議、中期経営計画のフィードバック、自社の資本コストを踏まえた経営戦略・経営計画の説明および、事業ポートフォリオの見直しや経営資源の配分等を含む経営戦略・経営計画の説明が行われているかについては概ね適正であるとされた。
- ・中長期的な企業価値の向上や ESG、SDG's の観点で、サステナビリティについての取り組みに関する議論が行われているかについても、概ね適切であるという意見であった。
- ・代表取締役の後継者の計画について、昨年に引き続き不十分であるという意見がある。

(4) 取締役会を支える体制

- ・社外役員に対する情報提供等の工夫および内部統制室や取締役・監査役との連携等は概ね適正になされていることが確認された。
- ・独立社外役員のみで構成する会合の開催については、前回からの課題であったが、1回実施したことで一定の評価を得られている。

(5) 取締役会の実効性向上に向けての提言・課題（任意）

- ・モニタリング機能を実務的に果たすため議論を活発にする方策、工夫を検討すると良いという意見があった。

以上から、当社取締役会の実効性は概ね適正に確保されているとの評価結果に至っている。

3. 今後の課題と対応

調査により記載のあった意見の中で、特に課題とするべき事項は次のとおり。

- ① 中期の方向性はまとまったが、コロナ禍にあって、具体的経営数値目標を設定すること。
- ② サステナビリティに関する議論は増加傾向だが、ESG・SDG's 視点での売上・利益向上策の創出が必要。
- ③ 代表取締役の後継者計画、次世代幹部の人材育成についての審議が必要。

当社は、当社取締役会の実効性についての上記分析・評価を踏まえ、抽出された課題を重点的に検討し、引き続き企業価値の向上を図ることを目的に取締役会の実効性を高めてまいります。

以 上